

2. 東日本大震災復興支援活動

復興支援ボランティア活動について

2011年6月より、定期的に宮城県に赴き、ボランティア活動を行ってきました。今年（2017年度）も、宮城県石巻市雄勝町で2回ボランティア活動を実施しました。石巻市でのボランティア活動は通算で18回を数えます。

活動後は必ず学内で活動報告会を開催し、ボランティアを通じた気づきや経験を学内で共有しながら啓発する努力を継続しています。そうした学内での啓発活動の成果もあり、雄勝町で活動するボランティア募集の参加申込者数が定員を下回ることはありません。宿泊などの関係上、定員を増やすことができないため、苦渋の選択で選考を実施し、各回、定員の30名を選抜しました。キャンセル待ちをする学生も多く、希望する学生全員に参加してもらえないのが非常に残念でなりません。参加者募集説明会は、深草・瀬田・大宮の全キャンパスで開催し、学生・教職員に対してコーディネーターが活動趣旨・リスクを十分に理解した上で参加するように呼びかけています。153名の学生が参加者募集説明会に参加し、67名が応募しました。

参加が確定した後は、毎回、別途説明会を実施しています。説明会では、提出書類（参加申込書、活動誓約書・保証人同意書）と参加費（2万円）の回収を行った後、確定しているスケジュールの詳細説明を行い、活動に関する質疑も受け付けます。最後に、キャンパス・学部・学年を越えて学内で募集することもあり、初対面の学生が多いため、参加者同士の自己紹介等を行って終了します。

今までに参加した学生達は、卒業後も自発的に地元でお世話になった人とたちと連絡を取り合っており、雄勝町を訪問するなど、活動終了後もゆるやかにつながっています。

事業名	第1回東日本大震災 復興支援ボランティア活動
実施日／場所	2017年8月12日（土）～8月16日（水） 宮城県石巻市雄勝町
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	32名（学生30名、引率2名）

1. 概要

第1回復興支援ボランティアのメインの活動は、「雄勝湾灯籠流し」の実施・運営のお手伝いでした。

具体的な作業としては、地元の皆さんと一緒に灯籠を約1000基作成し、灯籠を所定の場所までの運搬を行い、それをリレー形式で地域の皆さんと協力しながら漁船に積み込み、一つ一つのろうそくに火をつけながら海に流すことと、翌日の片づけです。また、最終日には、雄勝ローズファクトリーガーデン（以下ガーデン）で挑戦している「北限のオリーブ」であるオリーブ園の整備作業をお手伝いしました。

ここ数年は、「震災を学ぶ」ことにも力を入れており、活動に入る前に、一般社団法人 雄勝花物語の徳水氏から防災教育を受けていま

す。内容としては、発災当時の様子やその後の出来事、津波の被害などについて座学で講義を受けることと、大川小学校の跡地や雄勝小学校跡地を実際に歩きながら案内していただき体感することです。最終日には、全ての片づけが終わった後に、地元の高橋氏から震災当時のお話を聴くといったこともしています。



活動の終了後はふりかえりの時間も設けて、気づきを共有するようにしています。

2. 活動スケジュール

○8/12 (土) 【1日目】

- ・8時に深草キャンパス（京都駅集合は8時15分）を出発し、休憩を挟みながら21時過ぎに宮城県石巻市中心部に到着。ビジネスホテルで宿泊。
- ・バスの中で仲間作りのために、自己紹介ワークなどを実施。活動スケジュールなどもバスの中で案内。

○8/13 (日) 【2日目】

- ・8時30分にホテルを出発し、大川小学校跡地で徳水氏に大川小学校周辺の案内をしていた。その後、ガーデンに移動して、防災教育を受講した後、雄勝小学校跡地で実際に地元の人達が避難した経路の一部を歩く。
- ・上品の郷で入浴後、全勝旅館に移動。
- ・夕食後、高橋氏から現在の雄勝の状況などについてお話を聴く。

○8/14 (月) 【3日目】

- ・8時30分に宿を出発し、おがつ店こ屋街に移動。地元の方から灯籠の作り方を教わりながらの製作作業と、供養花火の打ち上げ場所の草刈りなどを実施。
- ・浜供養に参列した後、地域の皆さんとリレー形式で灯籠を船に運びこみ、会場に灯籠を流す。
- ・灯籠流しの後、供養花火を楽しみながら、地元の皆さんが用意してくださったバーベキューをいただく。
- ・21時ごろに宿に帰着。

○8/15 (火) 【4日目】

- ・8時30分におがつ店こ屋街前に集合し、流した灯籠の回収と後片付け
- ・全員でふりかえりを行った後、地元住民の神山氏と高橋氏から発災当日のお話を伺う。
- ・13時から16時50分まで雄勝ローズファクトリーガーデンの整備をお手伝い。
- ・上品の郷にて入浴と夕食。バスの中でふりかえりをしながら京都に向けて出発。

○8/16 (水) 【5日目】

6時に起床し、朝食休憩の後、京都駅と深草キャンパスにて解散。



3. 参加者の声

●参加者アンケートや寄せられた声からの抜粋

- ・今まではTVやインターネット等でしか東北の状況を知ることができませんでした。実際に行かせてもらい、津波の大きさ、怖さを知り、また復興に向けて前向きに活動される地域の人達の姿を感じました。多くの人達と知り合い、灯籠流しなどで、力になることができ、貴重な経験をさせていただきました。
- ・今回は灯籠流しの準備のお手伝いや雄勝ローズファクトリーガーデンの整備のお手伝いをさせていただきました。作業をしながら地元の人たちとお話出来る機会がありました。自分の家が津波によって飲み込まれていくところを高台から見ていたこと、病院の屋上へ逃げようとしていたところを一段低いところにいた80代くらいのおじいちゃんを見つけ、手を引いて屋上へ一緒に避難したこと、当時小学校低学年の子どもを持つお父さんは自分の子どもに自分たちの家がのみこまれていくところを見せたくないがために子どもの目を隠したといった嘘のない話をお聞きしました。こんなことを思うと本当に無責任で、失礼なことなのかもしれませんがこういった話を聞くと、まるで自分がこの震災を経験したかのように心が痛くなりました。私たちはたとえ大きな支援をできなかったとしても、忘れないことだけで終わらず、今回のボランティアで学んだことを他の人にも伝え、雄勝のことに関心を持ってもらえる人を1人でも増やしたいと思っています。これが私のこれからの目標です。最後に、将来もっともっと継続して積極的に雄勝に足を運んでみたいと思います。

4. コーディネーター所感

この「雄勝湾灯籠流し」には2013年から参加しています。震災前は、地元の人たちが一世帯で3つ灯籠を作り、地区ごとに持ち寄って続けてきた伝統行事だそうです。今年は天候に恵まれず、ずっと霧雨のような雨が降る中での活動になりましたが、大きく体調を崩す学生も出ず、無事に帰って来ることが出来ました。

灯籠流しも、地元の方が「こんなにきれいに流れたのを見たのは久しぶり」とおっしゃるほど、暗闇の海に浮かぶ灯籠は幻想的でした。

無事に伝統行事を終えた後は、地元の人達にバーベキューを開催していただき、食べて、笑って、龍大生と地元の人、他大学のボランティア学生等が、大いに交流を楽しんでいました。「一緒に何かをする」という体験が、人と人とをつなぐのだということを実感させられました。

防災教育では、大川小学校の跡地、雄勝小学校の跡地を講師の説明を受けながら歩きました。刻々と変化していく雄勝町の風景は、その

場に立つだけでは被災当時の様子を伝えてくれないようになりました。耳を澄ませ、目を凝らすと震災の傷跡が次々と発見されますが、発見する目を持てるところまで誘うことが、年々、困難になってきました。だからより一層、震災を知るための取組が大切になってきたと感じています。

関西出身で当時小学生だった学生の中には、東日本大震災についての記憶があまりないと話す人もいます。私にとってはついこの間の出来事ですが、発災から7年という月日が流れていることを改めて実感します。

その時々状況に合わせて、地元の皆さんの声を大切に、これからもきめ細やかなプログラム設計をしていかなければならないと考えています。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）〉

企 画 名	第2回東日本大震災 復興支援ボランティア活動
実施日／場所	2017年9月7日（木）～10日（日）宮城県石巻市雄勝町
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	32名（学生30名、引率2名）

1. 概 要

第2回復興支援ボランティアのメインの活動は、「雄勝小・中学併設校の大運動会」と「おがつスポレクまつり」がコラボレーションして実施された大運動会の実施・運営のお手伝いでした。競技中のサポート、場面転換のための器具の入れ替え、競技への参加、応援の盛り上げ、運動会終了後の片づけなどを行いました。運動会終了後には、雄勝支所の阿部次長や地元の高橋氏から震災直後の頃のお話なども聞かせていただきました。

他にも第1回の活動同様、雄勝ローズファクトリーガーデン（以下ガーデン）で挑戦している「北限のオリーブ」であるオリーブ園の整備作業のお手伝いや防災教育を受講しました。

活動の終了後はふりかえりの時間も設けて、気づきを共有するようにしています。



2. 活動スケジュール

○9／7（木）【1日目】

- ・8時に深草キャンパス（京都駅集合は8時15分）を出発し、休憩を挟みながら21時過ぎに宮城県石巻市中心部に到着。ビジネスホテルで宿泊。
- ・バスの中で仲間作りのために、自己紹介ワー

クなどを実施。活動スケジュールなどもバスの中で案内。

○9/8（金）【2日目】

- ・8時30分にホテルを出発し、大川小学校跡地で徳水氏に大川小学校周辺の案内をしていた。その後、ガーデンに移動して、防災教育を受講した後、雄勝小学校跡地で実際に子ども達が避難した経路を体験する。
- ・上品の郷で入浴・夕食後、全勝旅館に移動。
- ・夕食後、運動会についての説明を行った後、ふりかえりを実施。

○9/9（土）【3日目】

- ・8時00分に宿を出発し、運動会に参加。学生は5つのグループに分かれ、地元の人達のチームに入る。
地元の人達と一緒に競技に参加したり、応援したり、競技のサポートをしたりしながら運動会に参加。
- ・運動会終了後は、片づけ。
- ・雄勝支所の阿部次長、地元の高橋氏から話を聴く。
- ・上品の郷で入浴・夕食後、20時にバスの中でふりかえりをしながら京都に向けて出発。

○9/10（日）【4日目】

6時に起床し、朝食休憩の後、京都駅と深草キャンパスにて解散。

3. 参加者の声

- 参加者アンケートや寄せられた声からの抜粋
- ・今回2回目の参加で去年はなかった建物が建っていたり、防潮堤を作るためのトラックがたくさんいたりして、町が1年でこんなに変わるんだなと思いました。「知る」ということを学びました。

- ・震災から7年が経つ今も、龍谷大学と雄勝がつながり続けていることをとても誇りに思いました。スポレクであるおじいさんとお話をさせていただいたとき、「こうしてつながり続けることが何よりも嬉しい。龍谷大学の学生さんとは、これからもずっとつながりたい」とおっしゃっていました。雄勝の方からこうおっしゃっていただけるのは、先輩がバトンをつないできた証拠であり、後輩にも受け継いでいくことがボランティアに参加した学生の役割だと思いました。

4. コーディネーター所感

今回、初めての試みとなる運動会だったため、受け入れ側である併設校や雄勝支所の方達にとっても手探りの部分が多く、事前に運動会の詳細が分からず、コーディネーターとしては不安を感じる部分もありました。しかし、それは杞憂でした。学生達は臨機応変に自分の出来ることを見つけながら活動していました。

学生がこんな風に動くことが出来たのは、「私達の役割は運動会を盛り上げ、一緒に楽しむこと。初めての運動会だから、地元の人達も戸惑うことがある。私達は臨機応変に行動しよう!」と話し合っていたこともあり、積極的に動けたのだと思うのですが、地元の皆さんが、「龍大生、今年も来てくれたんだね～」と気さくに声をかけてくれたことが、学生のモチベーションを上げてくれたのだらうと思っています。

雄勝町で活動を始めて7年。積み重ねることの大切さを実感しました。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）〉

事業名	東日本大震災 復興支援ボランティア活動報告会
実施日／場所	【第1回】 2017年10月 5日（木）12時25分～13時00分 和顔館 B106教室 2017年10月12日（木）12時45分～13時20分 3号館206教室 【第2回】 2017年10月 6日（金）12時25分～13時00分 和顔館 B106教室 2017年10月13日（金）12時45分～13時20分 3号館206教室
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	学生、教職員のべ190名

1. 概 要

2017年度の第1回【8月12日（土）～8月16日（水）に実施】、第2回【9月7日（木）～10（日）に実施】の東日本大震災復興支援ボランティア報告会を深草、瀬田の両キャンパスで開催しました。

報告会の流れは以下の通りです。

- ①報告を聴きに来た参加者に、5～6人程度のグループに分かれて座ってもらう。
- ②活動の詳細をまとめた資料を配布。
- ③活動の様子をコンパクトにまとめたムービーを上映。
- ④活動に参加していた学生（2～3人組）が自分の担当のグループに活動についての説明を行う。

※活動の詳細については、各回の報告をぜひ読んでください。



2. ボランティア活動に参加した学生の声

「もっと詳しく話を聴きたかったのに、時間が足りなかった」「来年は自分も行きたい！」「最新の情報が聴けて良かった」など。

3. コーディネーター所感

全般的に報告会参加者の満足度は高かったのですが、活動の詳細を伝えたり、学生の想いをきっちり伝えるには、時間が十分ではなかったように感じています。これからも報告会の実施の仕方に工夫を凝らしながら、活動に参加した学生達の声届け、東日本大震災に関する関心の低下を防ぐ努力を続けたいと思います。



〈報告者：竹田 純子
（深草キャンパス コーディネーター）〉

企 画 名	東日本大震災 追悼法要におけるパネル展示
実施日	東日本大震災追悼法要：【深草】2018年3月8日（木）12時00分～13時00分 【瀬田】2018年3月9日（金）12時00分～13時00分 パネル展示：【深草】2018年3月7日（水）～3月16日（金） 【瀬田】2018年3月8日（木）～3月20日（火）
場 所	【深草】顕真館ロビー 【瀬田】樹心館ロビー
実施主体／運営	龍谷大学／宗教部／ボランティア・NPO 活動センター

1. 経緯・目的

本学では、これまで600名近くの学生や教職員が、復興ボランティアに参加し交流するとともに、復興イベントを実施し、臨床宗教師研修を開設し現地実習をおこなう等、被災者に寄り添った支援を続けてきました。東日本大震災以降も、2016年に熊本地震が発生し、海外では2015年にネパール大地震、今年2月に台湾東部地震等、たびたび甚大な震災が発生しています。3月11日を考えると、東日本大震災のみならず、様々な自然災害等により、多くの方が亡くなられ、被害にあわれた方々がおられることをも思わずにはおられません。

このたび、犠牲となられた方々を偲びつつ、すべての被災者および関係者の方々に改めてお見舞いを申しあげ、一人ひとりの“復興”に寄り添うとともに、いのち恵まれていることの不思議さ、有り難さに深く目覚め、学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」機縁として、次のとおり東日本大震災追悼法要を勤修しました。

2. 概 要

宗教部が勤修する法要の講話として、深草キャンパスでは、学生スタッフの南山さんが「東日本大震災復興支援ボランティアを通じた気づき、このボランティアへの参加をきっかけに学内や地域で取り組んだ防災・減災活動への取り組みについて」を報告し、瀬田キャンパスでは、加藤さんが「福島スタディツアー」の経験を報告しました。

また、2017年度の東日本大震災復興支援ボランティアの活動報告のパネルを作成し、法要会場の入り口に展示を行いました。災害の記憶を

風化させないための取り組みを行いました。

【東日本大震災追悼法要】

■深草キャンパス

法要 勤行 讃仏偈
調声 川添 泰信 宗教部長
法話 入澤 崇 学長
報告 南山 裕紀 政策学部4年

■瀬田キャンパス

法要 勤行 讃仏偈
調声・法話 道元 徹心 宗教部長代理
報告 加藤 翔汰 農学部2年

■大宮キャンパス

法要 勤行 讃仏偈



3. コーディネーター所感

本学では、2012年度から毎年法要が勤修されています。そして、法要に合わせて震災に関する展示や法要の中の講話で震災について語る機会をいただいています。年々震災の記憶は薄れていきますが、折々にこうやって真摯に震災に向き合う時間が持てることはとても大事だと思っています。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）〉